

EPSON
EXCEED YOUR VISION

2013年度(2014年 3月期) 第3 四半期 決算説明会

2014年 1月31日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2014. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

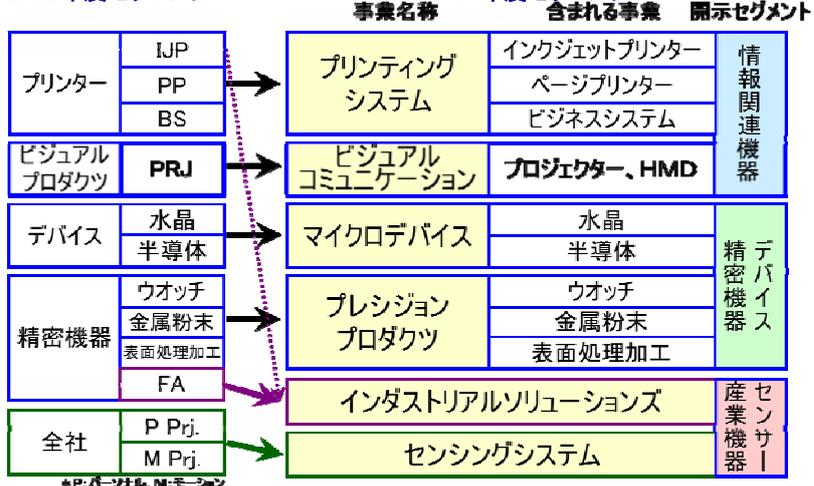
開示セグメントの変更について



SE15後期 新中期経営計画の事業戦略にもとづき、
将来にわたっての成長領域を再定義するとともに各領域における取組みを、
より明確にして加速させるために、2013年度から組織体制を整える

2012年度セグメント

2013年度セグメント



- 2013年度予想の比較説明においては、2012年度のセグメント損益もあわせて補正
- 事業譲渡をした光学事業は、「全社セグメント」に含まれる

2

■ 開示セグメントの変更内容

1) 2013年度 第3四半期決算

2) 2013年度 業績予想

決算ハイライト（9ヶ月累計）



9ヶ月累計 (億円)		2012年度		2013年度		増減	
		通算	%	通算	%	増減額	増減率
売上高		6,241	-	7,504	-	+1,263	+20.2%
営業利益		117	1.9%	749	10.0%	+631	+535.2%
経常利益		120	1.9%	719	9.6%	+598	+494.7%
税引前利益		△26	-0.4%	674	9.0%	+701	-
純利益		△126	-2.0%	507	6.8%	+633	-
EPS		△70.50円		283.79円			
換算 レート	USD	80.00円		99.39円			
	EUR	102.17円		132.23円			

4

■ 2013年度第3四半期までの9ヶ月累計

- 売上高は、7,504億円、
- 営業利益は 749億円、
- 純利益は 507億円。

決算ハイライト（第3四半期決算）



(億円)	2012年度		2013年度		増減	
	3Q実績	%	3Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,358	-	2,818	-	+459	+19.5%
営業利益	259	11.0%	408	14.5%	+149	+57.6%
経常利益	262	11.1%	413	14.7%	+150	+57.1%
税引前利益	269	11.4%	389	13.8%	+119	+44.5%
四半期純利益	228	9.7%	323	11.5%	+94	+41.6%
EPS	127.64円		180.71円			
換算 レート	USD	81.17円	100.46円			
	EUR	105.25円	136.69円			

5

■ 2013年度 第3四半期の実績

- 売上高は、前年同期比 459億円増収の 2,818億円、
営業利益は 149億円増益の 408億円、
四半期純利益は 94億円増益の 323億円。

第3四半期 業績のポイント(社内計画比)



- 情報関連機器を中心に戦略への着実な取り組み
- 各事業において価格施策、費用の効率的な執行の成果などに加え、円安効果もあり、売上高ならびに各段階利益において大幅な増収・増益

情報関連機器事業セグメント

インクジェットプリンター事業

- 本体数量は若干未達となったものの、引き続き本体価格施策、コスト改善への取り組み
- 消耗品売上についても欧米で堅調に推移

ビジネスシステム事業

- SIDMは欧州の案件需要が低調だったものの、中国向けは堅調
- POS関連製品は ほぼ計画どおり推移

6

■ 第3四半期における業績のポイント

- 10月31日の説明どおり、下期の営業利益予想240億円のうち、社内計画ではその大部分を第3四半期で計上する見込みだったが、情報関連機器事業セグメントが堅調に推移したことに加え、全事業において円安の効果もあり、売上高ならびに各段階利益は、社内計画を大幅に上回る結果となった。
- インクジェットプリンター事業では、本体数量は計画には若干届かなかったものの、新興国向けの大容量インクタンクモデルは概ね計画どおりだったことに加え、価格施策を堅持したことにより、想定以上に平均販売単価を高く維持することができた。また今年度投入した新製品での部品共通化・小型化のコンセプトにみられるように、従来から継続して取り組んできた本体のコスト改善についても想定以上の成果があった。消耗品についても、欧米において堅調に推移。以上により、売上高、営業利益ともに社内計画を上回った。
- ビジネスシステム事業は、SIDMが中東など欧州における案件需要が低調だったものの、中国向けの需要が堅調だったこと、ならびにPOS関連製品が概ね計画どおり推移したことにより、売上高、営業利益ともに社内計画を上回った。

ビジュアルコミュニケーション事業

- ▶ プロジェクターが欧州新興国や中国・アジア市場を中心に数量未達だったものの、価格施策への取り組み

デバイス精密機器事業セグメント

マイクロデバイス事業

- ▶ 水晶における需要の減少、プライスエロージョンの進行

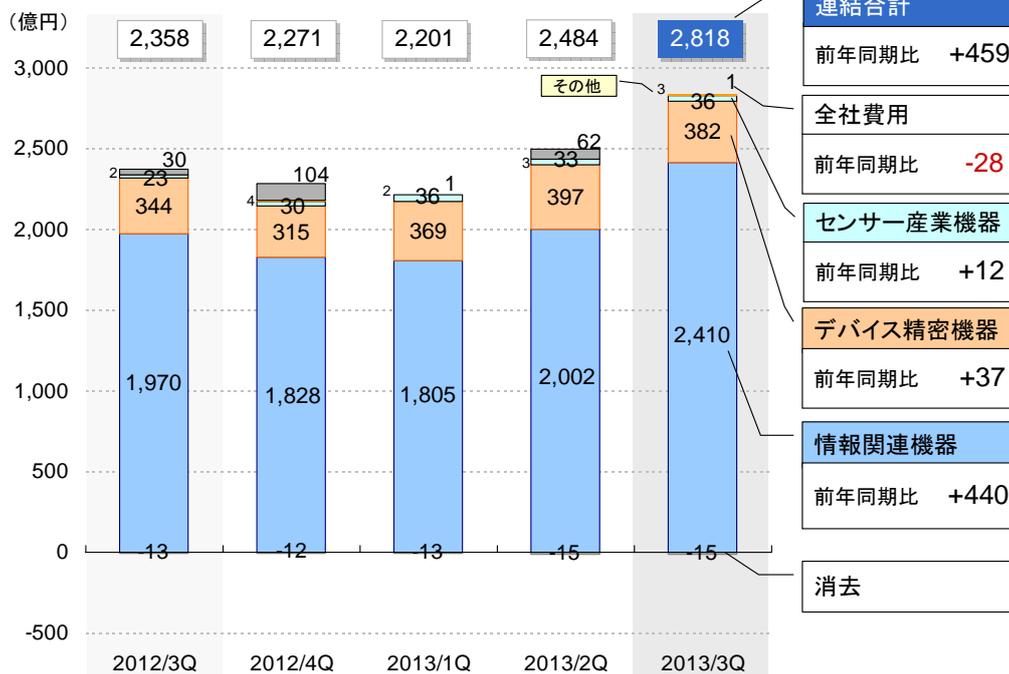
プレジジョンプロダクツ事業

- ▶ ウオッチが国内向け、高価格帯モデルを中心に堅調に推移

■ 第3四半期における業績のポイント

- ▶ ビジュアルコミュニケーション事業は、プロジェクターが、欧州新興国や中国・アジア市場を中心に販売数量は未達だったものの、価格施策への取り組みの強化により、平均販売単価を想定より高く維持できたことなどから、売上高、営業利益ともに社内計画を上回った。
- ▶ デバイス精密機器事業セグメントは、マイクロデバイス事業において、水晶がセルラー、デジタルカメラなどの需要減の影響があったものの、プレジジョンプロダクツ事業のウオッチにおいて、国内向けブランド品が堅調に推移したことなどから、売上高、営業利益ともに社内計画を上回った。

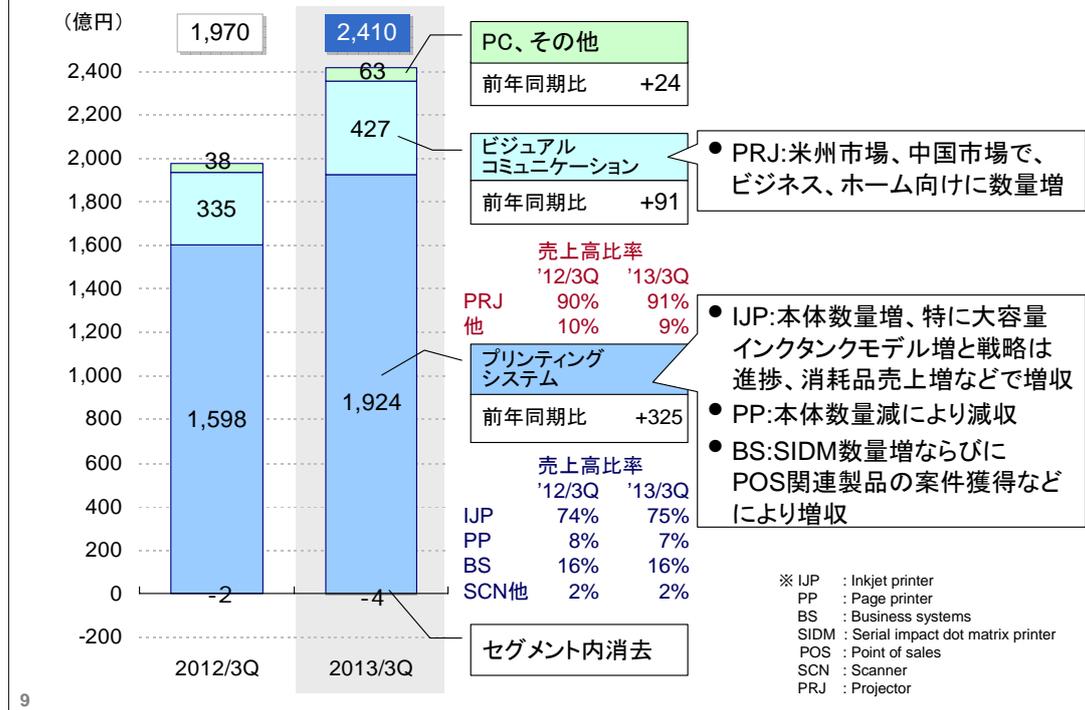
四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の四半期売上高推移

- 前年同期との比較では、
情報関連機器は、440億円の増収、
デバイス精密機器は、37億円の増収、
センサー産業機器は、12億円の増収。
- センサー産業機器は、インダストリアルソリューションズ事業において
中国を中心とした新興国向けにロボット、ハンドラーの需要増加などがあり、増収。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、
情報関連機器セグメントを中心に、
前年同期比で約385億円のプラス影響。

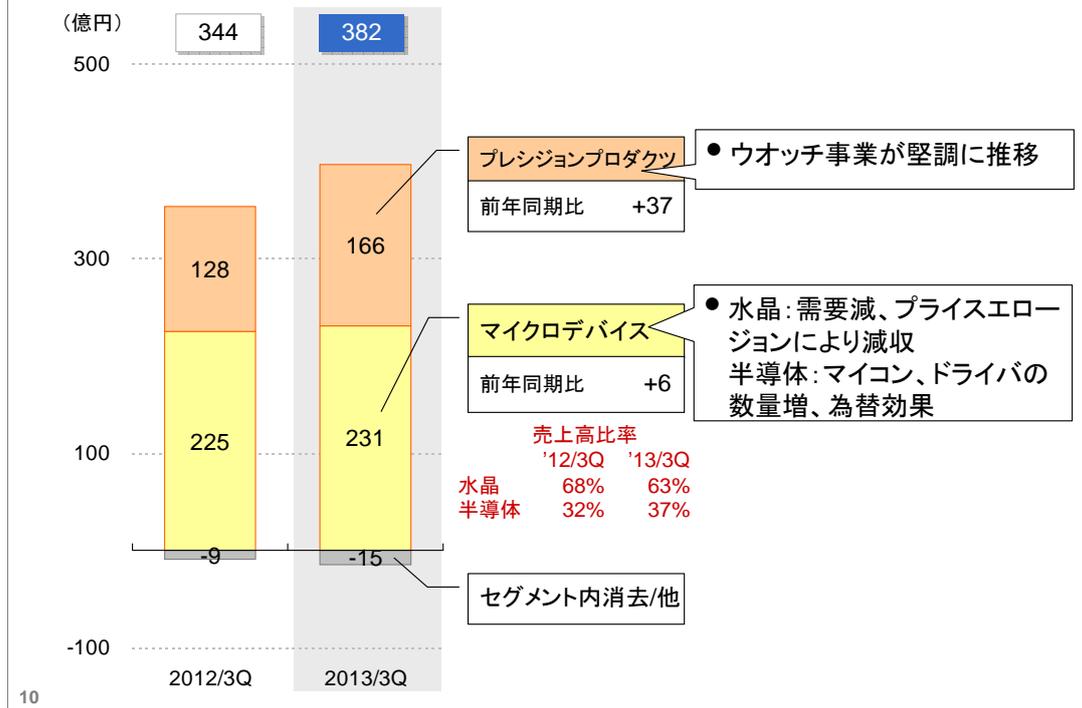
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器事業セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの第3四半期売上高

- 当セグメントでは全ての事業において、円安による効果があった。
- プリンティングシステムは、325億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体が数量増となったことに加え、モデルミックスならびに価格施策による平均販売単価の上昇と、消耗品の売上が増加したことにより、増収。
- また、商業向けの大判プリンターにおいても、本体のラインアップ拡大の効果が徐々に表れてきていることに加え、日本、北米市場における緩やかな景気回復などもあり消耗品売上が増加したことにより、増収。
- 以上の結果、インクジェットプリンター事業は、前年に対し増収。
- ページプリンターは、低価格モデルの数量の絞り込みにより、減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが中国における銀行案件などにより数量増となったこと、POS関連製品が欧州、中国の市場低迷が続くものの、米州市場が堅調に推移する中で案件獲得などもあり、増収。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターが欧州市場での低調な需要の影響があったものの、米州や中国市場のビジネス、ホーム向けを中心に数量増となったことなどにより、増収。

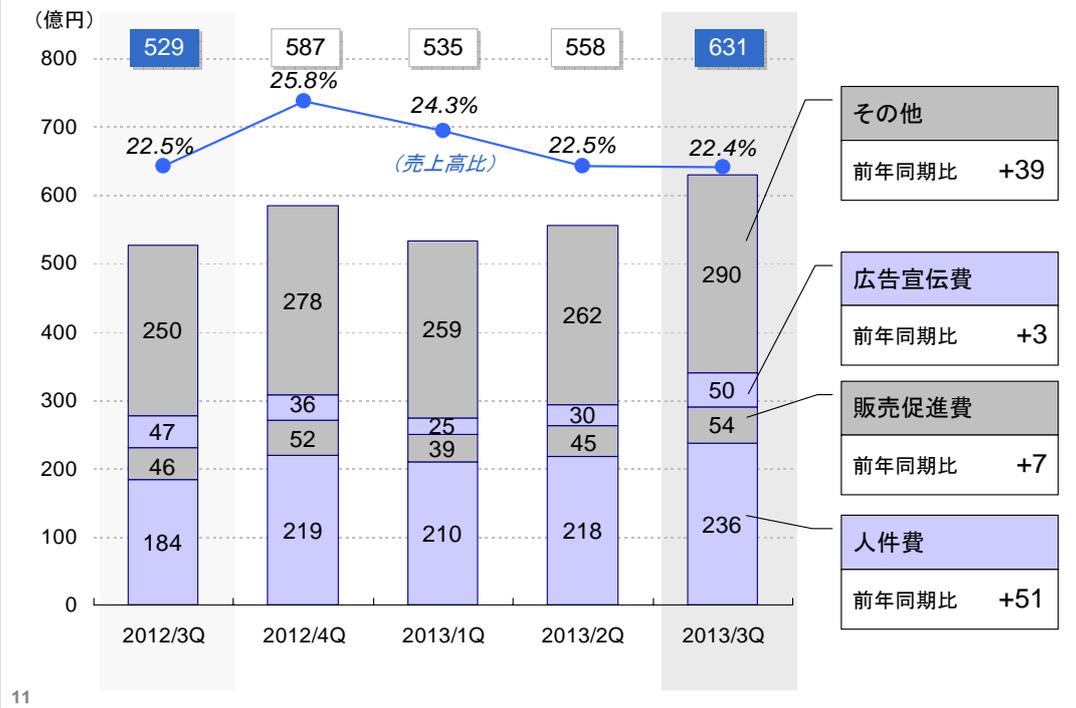
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器事業セグメント



■ デバイス精密機器事業セグメントの前年同期比較

- マイクロデバイスは、水晶がセルラーやデジタルカメラ向けの需要減と、プライスエロージョン進行の影響を受けたものの、半導体において、マイコンやドライバが数量増となったことに加え、円安による効果もあり、マイクロデバイス事業全体では増収。
- プレジジョンプロダクツは、ウオッチにおいて高価格帯や国内向け製品を中心に堅調に推移したことにより増収。

四半期販売費及び一般管理費推移

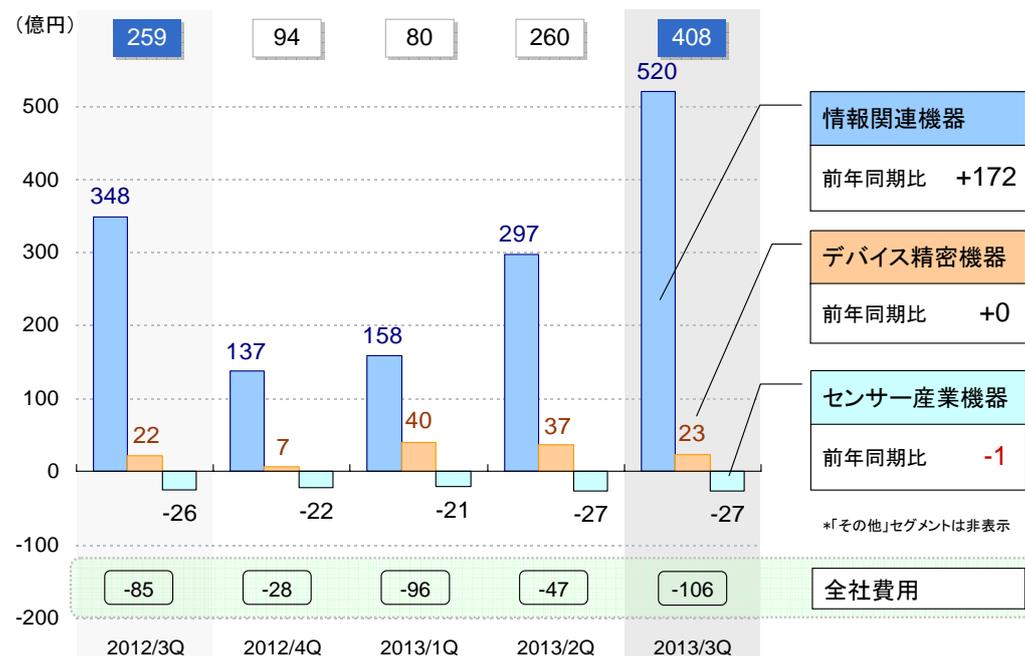


11

■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 円安による影響と業績向上にともない、人件費は増加したものの、広告宣伝費ならびに販売促進費の効率的な執行に努めたことにより売上高に占める販管費の比率は、ほぼ前年同期と同じ水準となった。

四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別

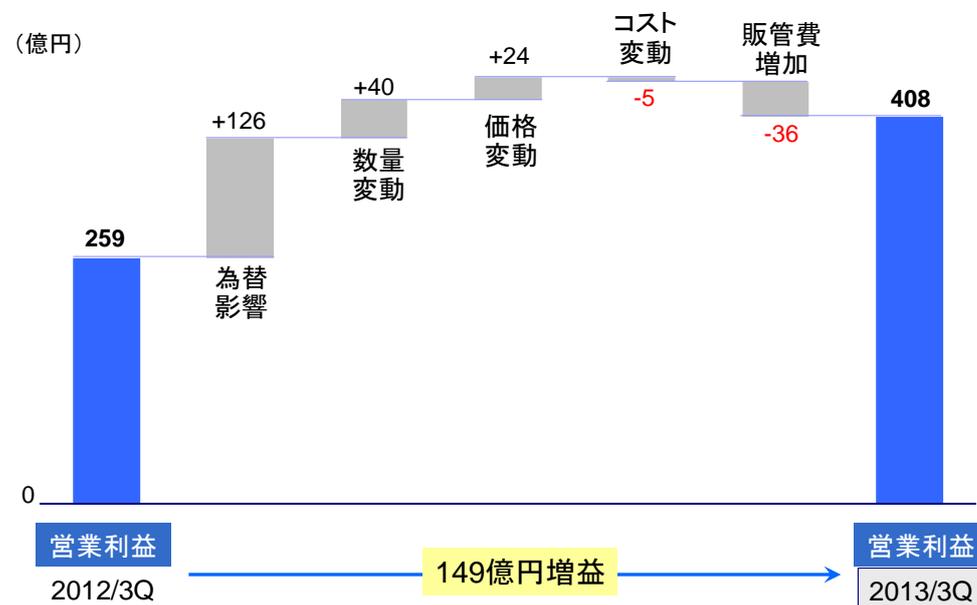


12

■ 事業セグメント別の四半期営業利益推移

- 当四半期は、為替の円安効果は全社で、前年同期比 約126億円 のプラス影響。
- 情報関連機器は、前年同期比 172億円増益の 520億円。
- インクジェットプリンターは、消耗品の増収と、本体のモデルミックスならびに平均販売単価の改善に加え、収益性のより高い商業プリンターの増収などにより、大幅な増益。
- ビジネスシステム、ならびにビジュアルコミュニケーションも、増収により増益。
- ページプリンターは、減収により減益。
- デバイス精密機器、ならびに センサー産業機器は前年並み。

営業利益増減要因分析

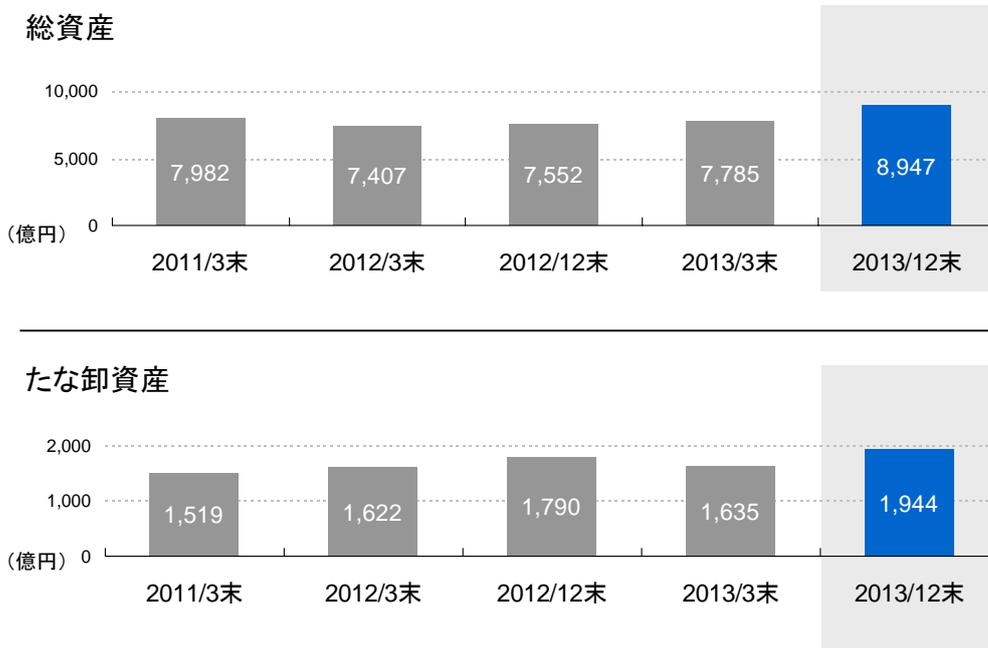


13

■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2012年度 第3四半期の営業利益 259億円 に対し、販管費の増加があったものの、為替影響、数量変動、価格変動などの増益要因により、四半期営業利益は 408億円。

貸借対照表主要項目推移



14

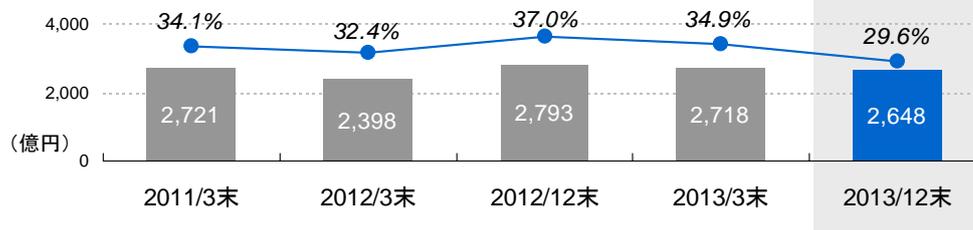
■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、手元資金や 受取手形および売掛金、
ならびに たな卸資産の増加などにより前期末に比べ 1,162億円増加。
- なお、たな卸資産については、
円安による為替換算の影響により前期末に比べ309億円増加しているが、
為替影響を除けば、ほぼ計画並みの水準。

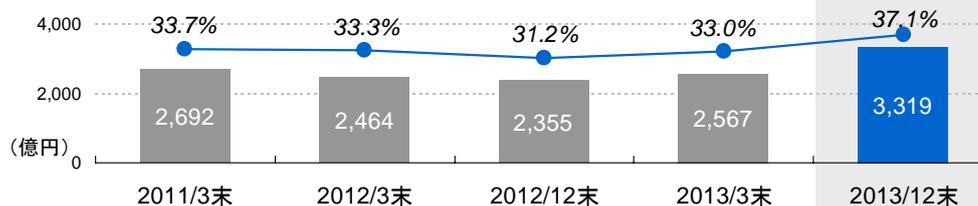
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

15

■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、
社債の発行を9月に実施したが、
借入金の返済を進めたことにより 前期末に比べて70億円減少し、
総資産の有利子負債依存度は 29.6%。
ネット有利子負債は、366億円となり、前期末から505億円減少。
- 自己資本は、
第3四半期までの業績および円安による為替換算の影響などにより、
前期末に比べ 751億円増加し、その結果、自己資本比率は 37.1%。

1) 2013年度 第3四半期決算

2) 2013年度 業績予想

2013年度業績予想



(億円)	2012年度		2013年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	10/31予想	%	今回予想	%	前期実績比	前回予想比
売上高	8,512	-	9,600	-	9,900	-	1,387 +16.3%	+300 +3.1%
営業利益	212	2.5%	580	6.0%	790	8.0%	+577 +271.7%	+210 +36.2%
経常利益	176	2.1%	550	5.7%	740	7.5%	+563 +319.8%	+190 +34.5%
税引前利益	△34	-0.4%	480	5.0%	680	6.9%	+714 -	+200 +41.7%
当期純利益	△100	-1.2%	340	3.5%	520	5.3%	+620 -	+180 +52.9%
EPS	△56.41 円		190.06 円		290.68 円			
換算 レート	USD	83.11円	97.00円		100.00円		今回予想 4Qの予想前提レート USD: 100.00円 EUR: 140.00円	
	EUR	107.14円	127.00円		134.00円			

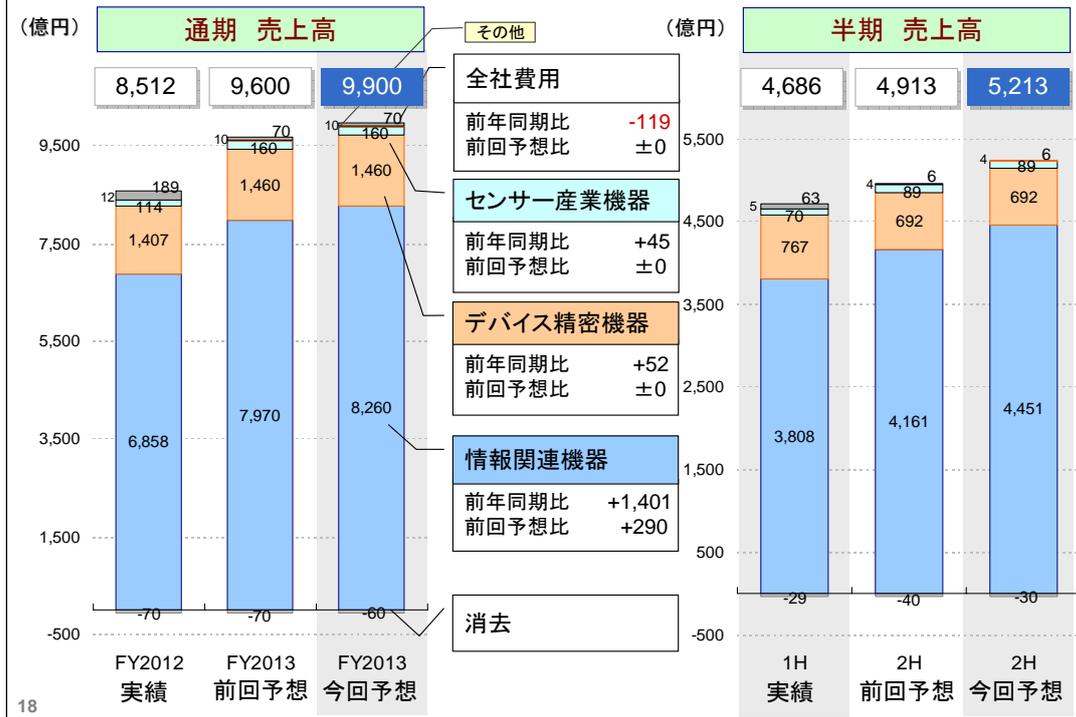
前回予想 第3四半期以降の予想前提レート
USD: 95.00円、EUR: 125.00円

17

■ 2013年度の業績予想

- 第3四半期実績、ならびに各セグメントの今後の見通しを踏まえ、第4四半期の予想前提レートをUSD 100円、ユーロ140円に変更した上で、売上高は、前回予想を300億円上回る 9,900億円、営業利益は、210億円上回る 790億円、当期純利益は、180億円上回る 520億円に修正。
- なお、期末配当予想については、通期業績予想の上方修正を受け、前回予想の1株あたり13円から37円に上方修正。
- これにより、1株あたりの年間配当は、中間配当とあわせて、50円となる予定。

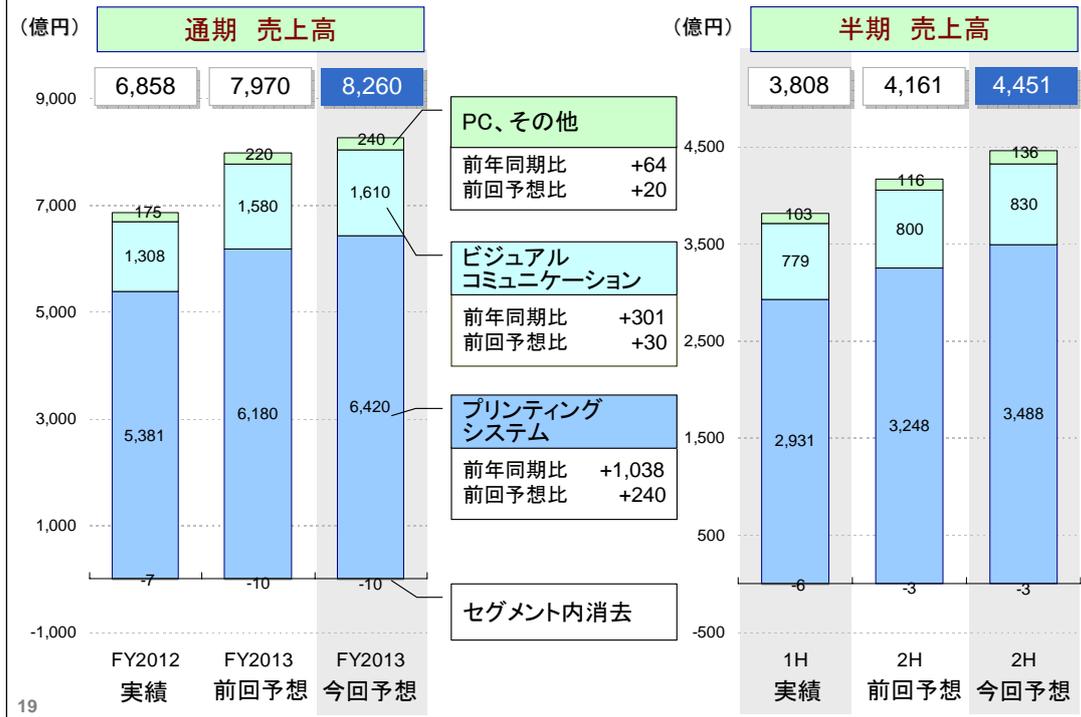
2013年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■ 2013年度の事業セグメント別売上高の予想、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器の通期売上高は 8,260億円、
- デバイス精密機器は 1,460億円、
- センサー産業機器は 160億円を予想。

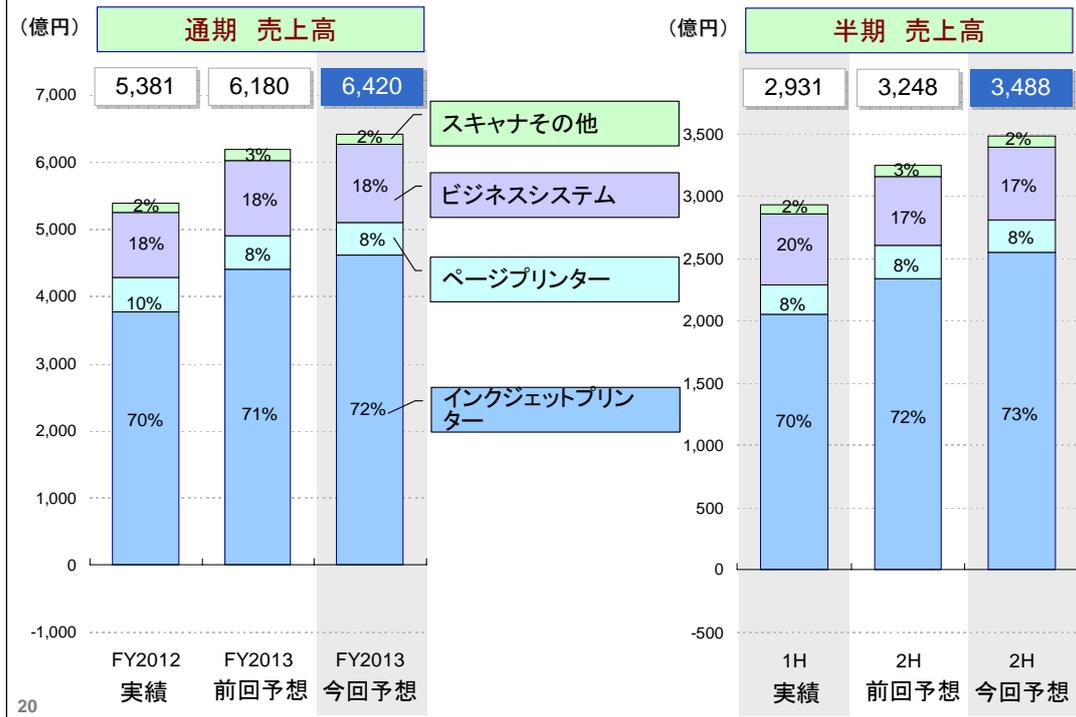
事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器事業セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高予想の内訳

- ビジュアルコミュニケーションは、
前回予想を 30億円上回る、1,610億円を予想。
- プロジェクターは、引き続きアジアや欧州の需要回復の遅れによる市場成長の鈍化が見込まれるが、戦略製品の拡販などに取り組むことで、前年ならびに、市場成長を上まわる、数量成長を見込む。

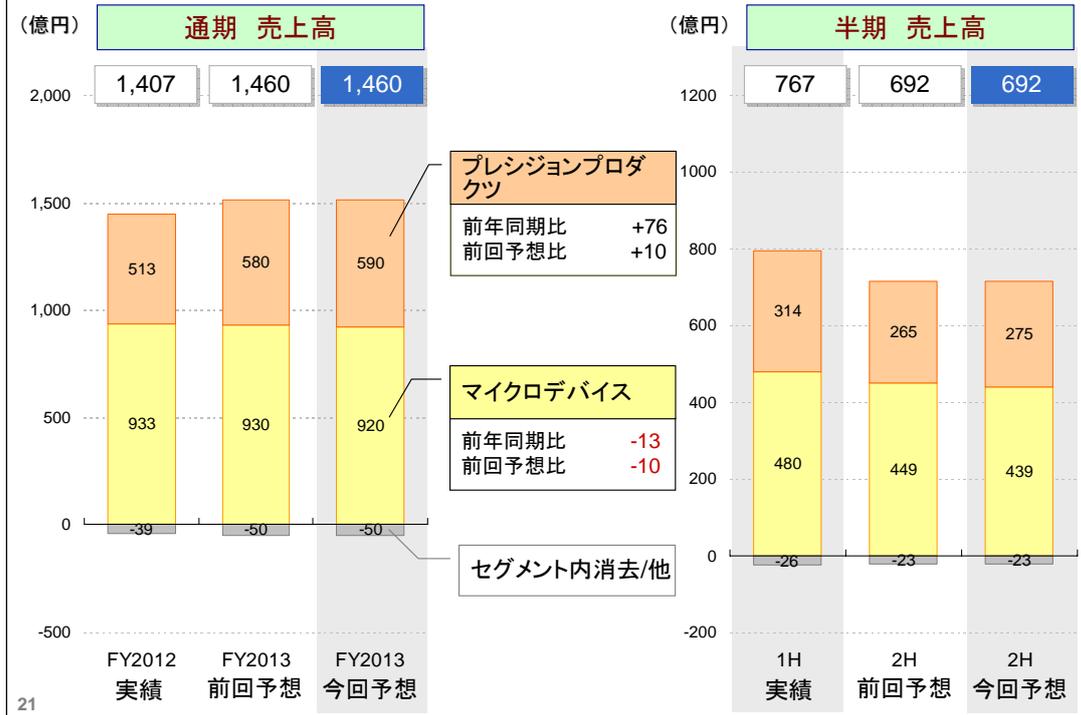
事業別売上高予想 ▶ プリンティングシステム事業



■ プリンティングシステム事業の製品別売上高予想

- 前回予想を 240億円上回る 6,420億円を予想。
- インクジェットプリンターは、新興国市場は成長するものの、先進国の数量減少から、市場全体では横ばいという認識に変化はない。引き続き価格施策は堅持しつつ、好調な大容量インクタンクモデルの販売数量の拡大に取り組み、第4四半期も前年を上回る販売数量を計画。なお、通期の販売数量については、前回予想までは前年度並みに据え置いていたが、第3四半期までの状況を踏まえ、今回予想を、前年度比 3%のマイナスへ見直し。
- ビジネスシステムも足元の市場環境に大きな変化はない。POS関連製品において、欧州や中国での市場低迷の影響はあるものの、北米や、アジア市場における案件需要などを見込む。

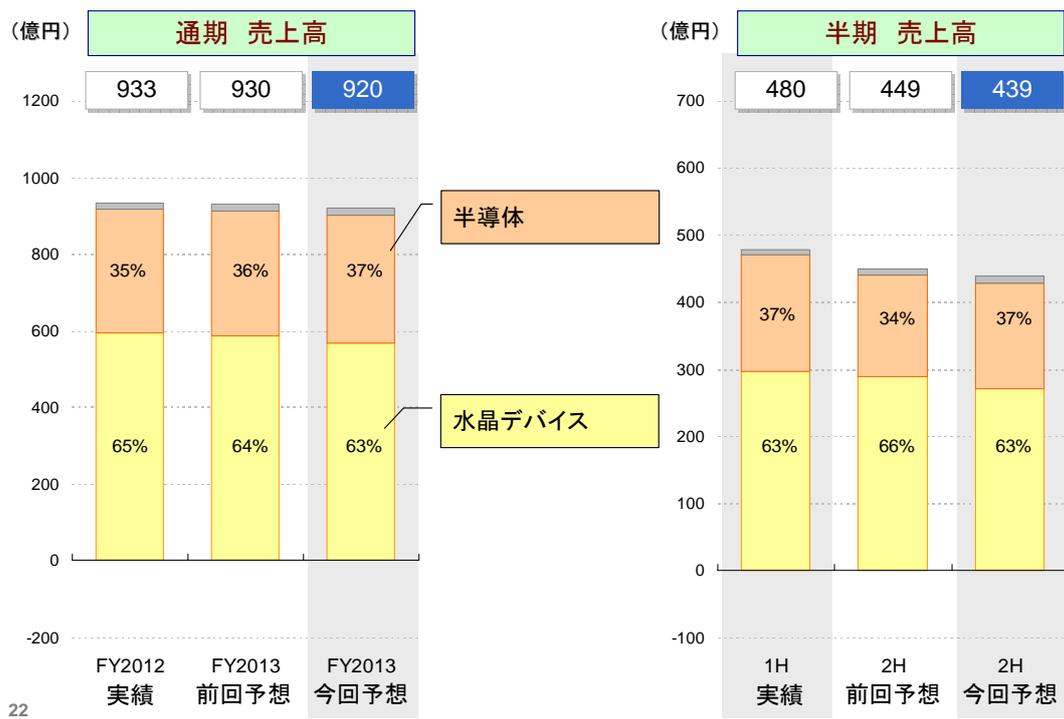
事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器事業セグメント



■ デバイス精密機器の事業部門別売上高の内訳

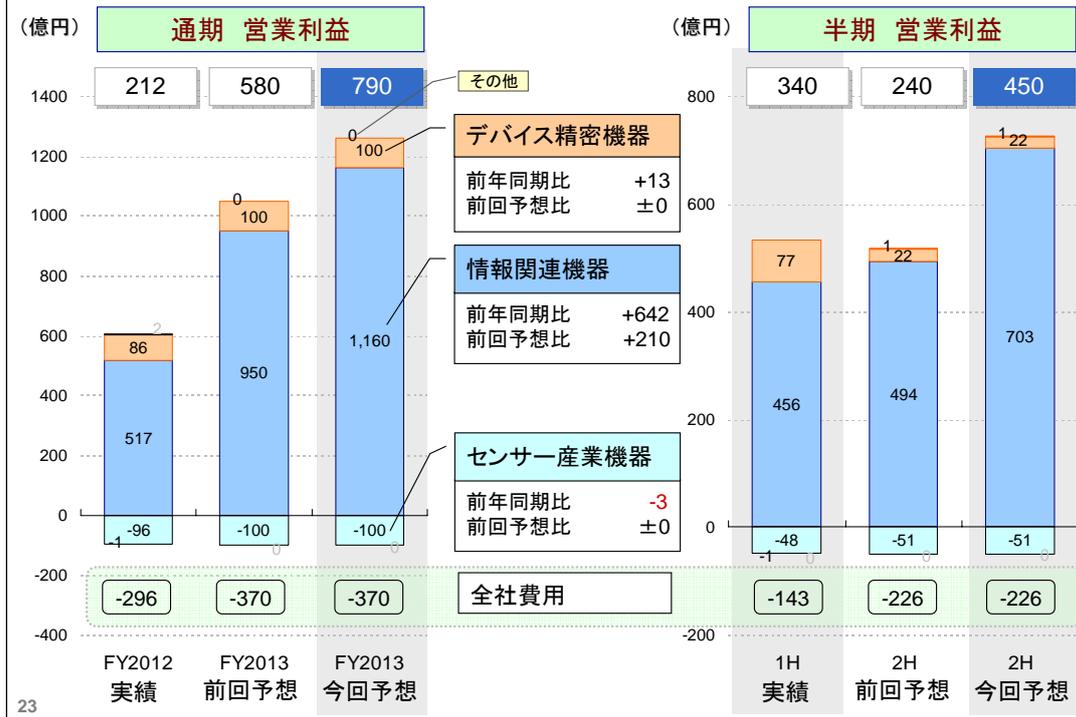
- ▶ マイクロデバイスは、水晶において厳しい市場環境が継続することが見込まれる。確実な受注獲得や、費用の効率的な執行に努め、計画達成に向け取り組む。
- ▶ プレジジョンプロダクツは第3四半期実績を反映して変更。市場環境は、前回予想から変化はない。

事業別売上高予想 ▶ マイクロデバイス事業



■ マイクロデバイス事業の製品別売上高予想の内訳

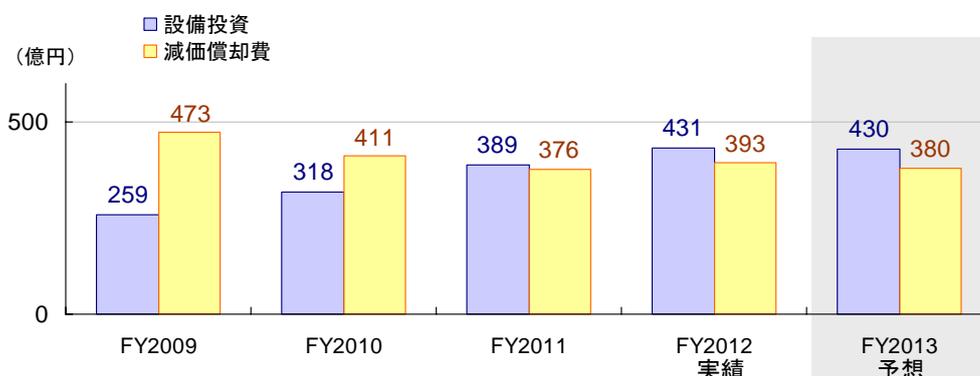
2013年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 営業利益の事業セグメント別予想、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器は、インクジェットプリンターを中心に戦略の進捗にともなう効果に加え、為替前提の変更分を織り込み、前回予想を210億円上回る、1,160億円に修正。
- デバイス精密機器ならびにセンサー産業機器は前回予想の営業利益から変更なし。

設備投資・減価償却費予想



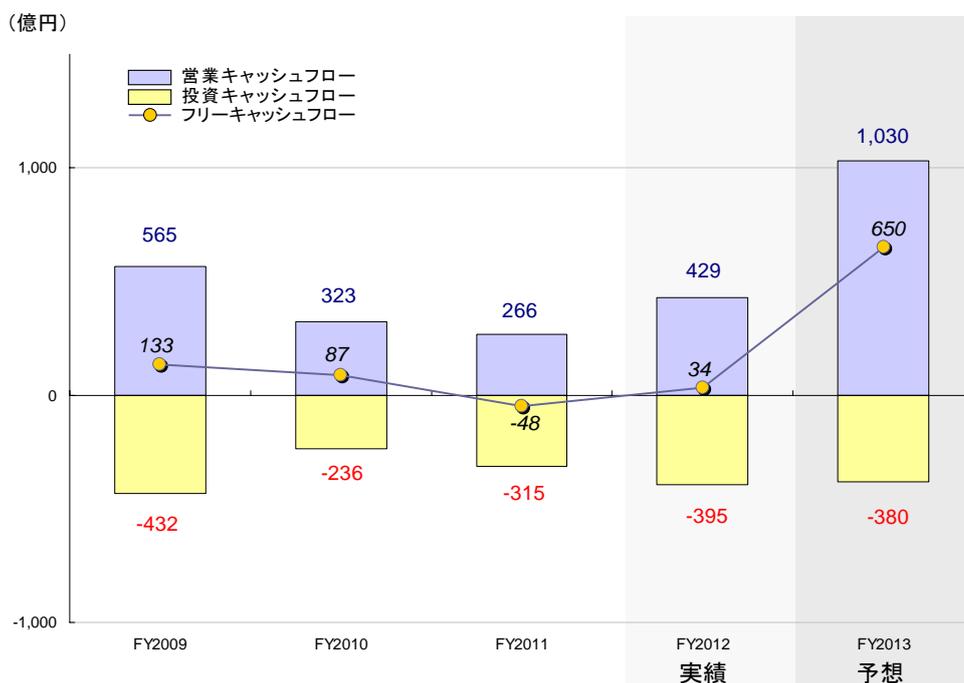
<セグメント別内訳>	FY2012実績		FY2013予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	334	263	300	240
デバイス精密機器	67	80	90	80
センサー産業機器	5	5	10	10
その他・全社費用	24	43	30	50

24

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は、案件の厳選により、前回予想の440億円から430億円に、減価償却費は執行時期のズレを反映し、前回予想の440億円から380億円に、それぞれ見直し。

フリーキャッシュフロー予想

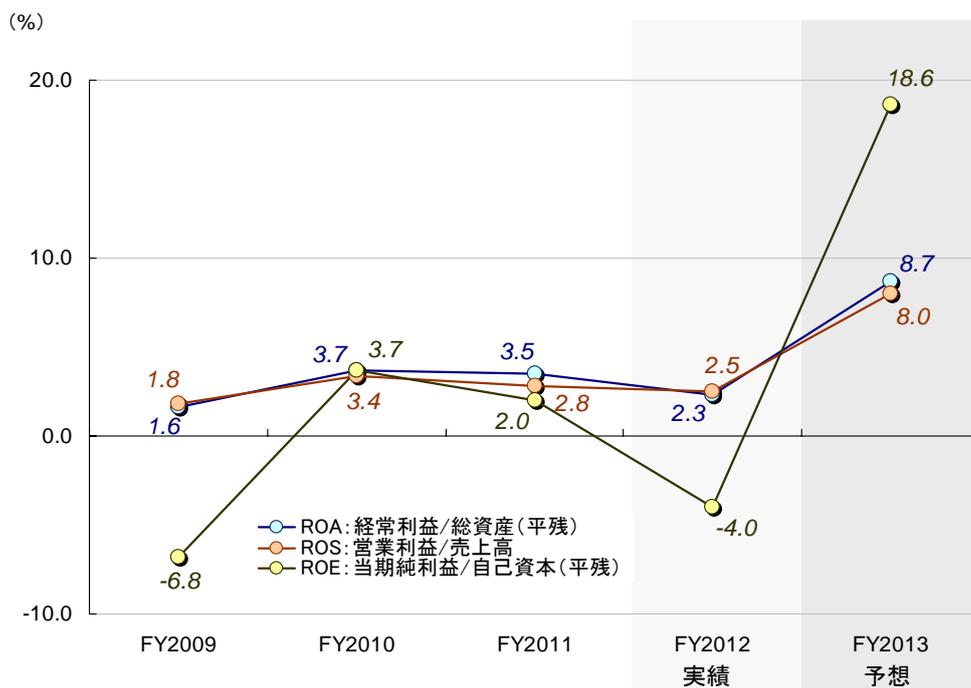


25

■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正ならびに設備投資の見直しにより、フリーキャッシュフローは前回の400億円から650億円に見直し。
- これにより、年度末のネット有利子負債は、約150億円になる見込み。

主な経営指標の推移



26

■ 主な経営指標

ROSは 8.0 %、 (営業利益率)

ROAは 8.7 %

ROEは 18.6 %

EPSON
EXCEED YOUR VISION